



Agri Note

菜園

【アグリノート】
家庭菜園情報



JA福井県

残暑が厳しい日が続いていますが、秋冬野菜の播種・植付けはいよいよこれからが本番となります。今号では「秋冬野菜の暑さ対策」と「ブロッコリー・ダイコンの栽培ポイント」をご紹介します。

異常な高温が続いていますので、こまめな水分補給などの熱中症対策を最優先にしつつ、適切な水管理と害虫対策で元気な野菜を育てましょう。

1. 秋冬野菜の暑さ対策について

秋冬野菜の暑さ対策は、強い直射日光を和らげて地温の上昇を防ぎ、乾燥や発芽不良を避けることが重要です。遮光ネットや寒冷紗の活用、敷きわらによる地温抑制、朝夕の涼しい時間帯の水やり、そして種まきや植付け時期の調整が主な対策です。

① 日よけ・遮光の工夫

遮光ネットや寒冷紗をトンネル状に張る。植付け後や種まき直後の活着・発芽までの2～3週間は特にしっかり守る

② 地温・水分の管理

敷きわらや刈り草(草マルチ)を置く、熱のこもりやすい黒マルチは避け、白黒マルチを活用し地温の上昇と水分の蒸発を抑える。

③ 種まき・植付けのコツ

ダイコンは、種まきの深さを通常より深くして地温を下げる。苗はしっかりとしたものを選び、植え付け時期を9月上旬頃へ少しずらす。

2. 秋冬ブロッコリー

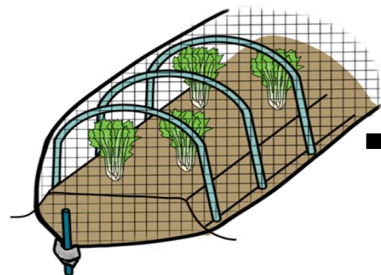
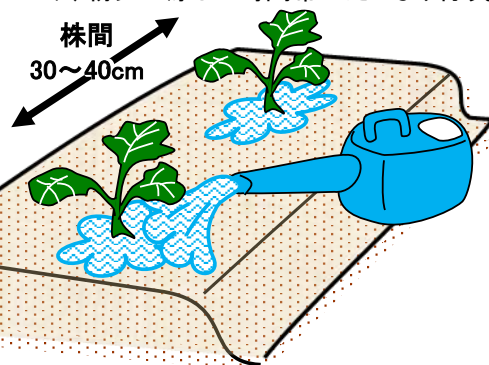
■ 圃場準備

- ① 定植2週間前に石灰(PH調整)と堆肥を施用し耕運する。
- ② 定植1週間前に元肥を施用し畦立をする。

■ 植付け

- ① ポット苗は、白い根が張っていて、徒長していない健康な苗を選ぶ。
- ② 根鉢を崩さないように植付ける。その後、1週間程度は、かん水して活着を促す。

- 植付けから活着までの水やりは、日中を避け、朝夕の涼しい時間帯にたっぷり行う。



■ 植付け後の管理

- ① 活着後は、病気予防のためにもかん水を控える。
- ② 植付けから2週間後、畝の中央に1回目の追肥を行う。(化成肥料20g/㎡)
- ③ アオムシ、ヨトウムシ、コナガなどの害虫対策を実施。できる方は防虫ネットを設置。防虫ネットがない方は見つけ次第すぐ捕殺するか、農薬を使って防除を行う。

3. 秋冬ダイコン

■ 圃場準備

- ① 土塊を極力細かくするため、握った土が固まり、放すと崩れる程度に湿った状態で深耕する。
- ② 播種の7日前までに元肥施肥を行う。本葉5～6枚時には30g/㎡の追肥を行う。

■ 播種方法

- ① 土壤に湿り気がある状態で行う。
- ② 株間30cmの間隔で、まき穴(深さ1.0～1.5cm)を作り、1か所に4、5粒程度まく。

■ 播種後の管理

① 病虫害防除

予防防除 : 播種時に浸透性の殺虫剤の粒剤を穴へまく。
初期防除 : 本葉1枚時からアブラムシ、ハイマダラノメイガ、コナガの発生に注意して行う。

② 間引き

本葉が1～2枚時に2本に、本葉が5～6枚時に1本に間引く。

